

活動記録書

開催日： 令和7年1月10日(金) 天候 晴	開催テーマ： 建長寺をじっくり拝観
開催場所：鎌倉	記入者：金久保常二
参加人数： 会 員 23 名 ビジター 3 名 計 26 名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>コース：北鎌倉駅～建長寺【正統院(昇堂・高峰賢日の陵墓・神雷戦士之碑)～河村瑞賢父子の墓～虫塚～方丈～唐門～法堂～仏殿～嵩山門前～鐘楼～三門～総門(解散)</p> <p>建長寺には、昔は49院の塔頭があったが現存するのは10院ほどで、ほとんどが公開されていない。その中で特別に格式の高い正統院において、ご住職の御好意で特別拝観させていただく事が出来た。正統院前の階段で正統院と高峰頭日の事前説明を川口会員より受け昇堂する。昇堂後に詳細説明の拝聴とともに、開山である高峰頭日の頂相(国重要文化財)と春日局の位牌などを拝観し、狭い境内ではほぼ一列で移動した。頭日の陵墓や桜花による特攻部隊の鎮魂碑(神雷戦士之碑)を訪ねた。</p> <p>建長寺の奥に河村瑞賢の墓がある。100段以上の石段を上る。瑞賢は明暦3(1657)年江戸の大火で材木を買い占め大きな利益を得た。また江戸や大坂(大阪)に荷物を運ぶための新しい航路を開いて日本の海運事業の発展に貢献した人である。</p> <p>歩を進めて虫塚に向かう。平成27(2015)年6月4日(虫の日)に養老孟司等が建立する。命を奪われた昆虫を供養する為の慰霊碑である。デザインは建築家・隈研吾によるもの。</p> <p>虫塚からの石段を下り右に参道を進むと「龍王殿」の額を掲げた方丈がある。宝冠釈迦如来像がまつられている。方丈に上がり後ろに回ると、庭園(国名勝)がある。「心」の字の形に掘った池なので「心字の池」を中心とした庭園で、開山の蘭溪道隆が造ったといわれ、我が国の禅寺の方丈庭園の始まりである。</p> <p>方丈からの右側の参道を下ると、唐破風の屋根の唐門(国重文)がある。この唐門は、勅使門ともいわれ、仏殿と同じく増上寺から移したもので優美な造りのものである。平成23(2011)年解体修理が施され輝きがとりもどされた。</p> <p>仏殿の後ろの法堂(国重文)は、寺の儀式などが行われる大きな建物で、文化11(1814)年に建てられた。明(今の中国)の竹西が書いたといわれる「海東法窟」の額を掲げ、千手観音を祀っている。天井には小泉淳作の立派な「雲龍図」の絵が描かれている。</p> <p>現存の仏殿(国重文)は、寛永5(1628)年に芝増上寺に建てた江戸幕府第2代将軍の徳川秀忠夫人だった崇源院の御霊屋の拝殿を正保4(1647)年に移転した。本尊は台座をいれると約5.6mもある大きな地藏菩薩像が祀られている。仏殿前の庭園の柏植は蘭溪道隆お手植えの古木は樹齢750年と言われている。</p> <p>総門を入ると三(山)門(国重文)があり、三門は安永4(1775)年に再建された大きな2階建ての二重門で、正面には後深草天皇の筆跡といわれる「建長興国禅寺」の額が掲げられている。昭和29(1954)年に茅葺から銅葺に改修された。2階には、銅造の釈迦如来や五百羅漢像などが祀られている。</p> <p>参道を下った三門の右手には鐘楼があり、大きな梵鐘(国宝)がかけられている。この鐘は建長7(1255)年に北条時頼の寄進でできたもので、大きさは円覚寺の鐘には及ばないが関東の鐘などを造る物部重光の作で建長寺創建当時から残る貴重な鐘である。</p> <p>本日の探訪は特別拝観の塔頭の正統院から始まった。境内にある徳川時代に再建、あるいは移築された建築物に当時を偲びじっくり拝観した。伽藍配置の方丈、法堂、仏殿、山門などを道なりに進み、総門正面で解散をした。</p>	
<p>参加者の状況・意見など</p> <p>年の初めの月例、天候にも恵まれ大満足の日。特に正式参拝は普段できない正統院について、川口会員の尽力により特別に昇堂拝観できたことに対して感謝の声があった。</p>	
<p>次回の予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年2月14日(金)13時30分 金沢公会堂多目的室 テーマ：鎌倉の祭りと行事を楽しむ part II 	